

Saitama Municipal Omiya International Secondary School



Middle Years
Programme



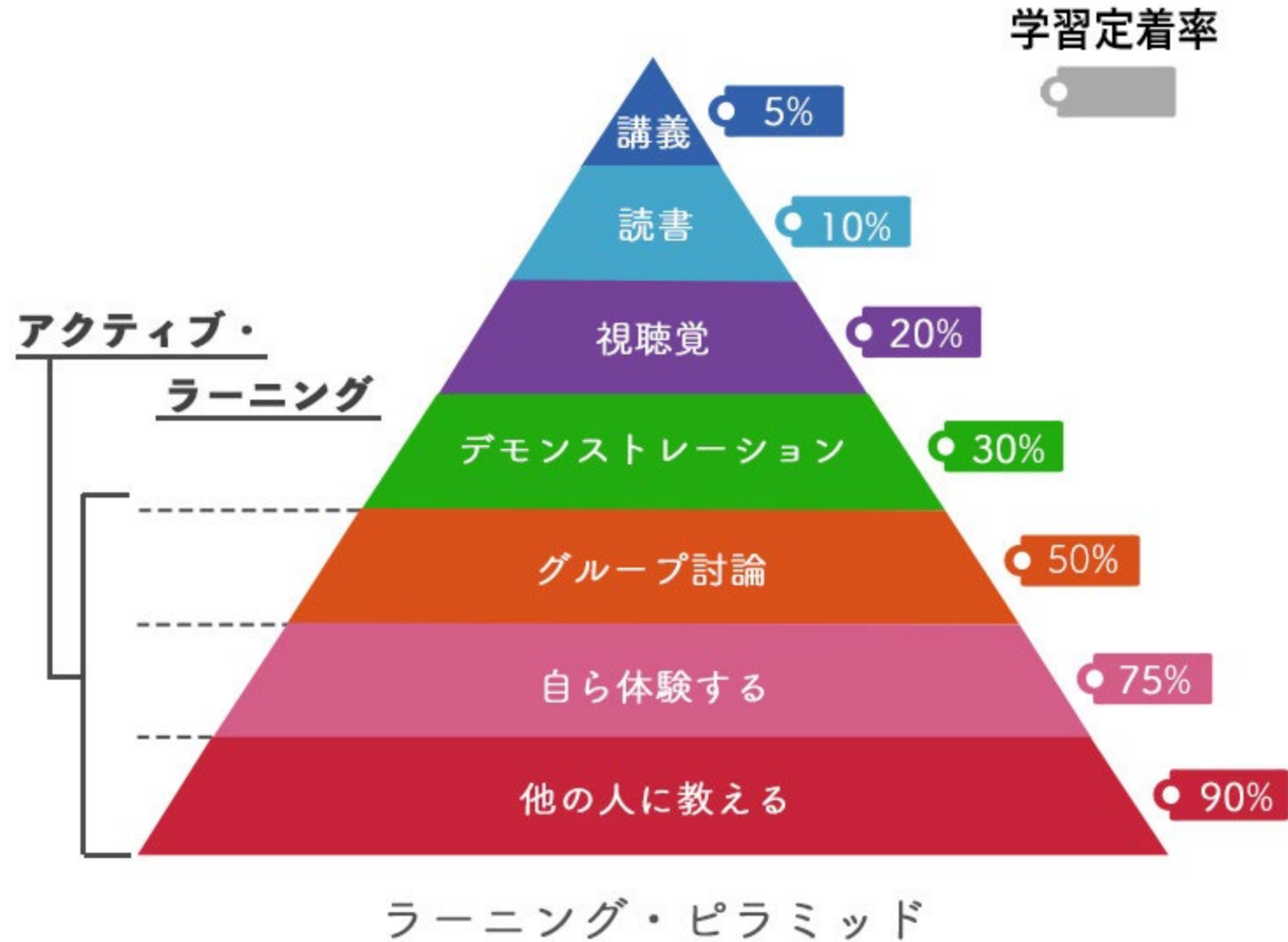
Diploma
Programme

ここで学ぶ、

世界の未来のつくり方

Learn to make the future of the world

MOISが（世界が）重視する探究的な学習



出典：Learning pyramid (National Training Laboratories Institute)

2040年の社会に向かう教育改革

子供の未来を支える皆さまと共有したい
新しい学習指導要領

生きる力 学びの、その先へ

「生きる力」を育むために

子供たちの学びはどう進化するの？

主体的・対話的で深い学び

(アクティブ・ラーニング)

の視点から「何を学ぶか」だけでなく
「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。



一つ一つの知識がつながり、
「わかった!」「おもしろい!」
と思える授業に

見通しをもって、粘り強く
取り組む力が身に付く授業に



周りの人たちと共に考え、学び、
新しい発見や豊かな発想が
生まれる授業に

自分の学びを振り返り、次の学びや
生活に生かす力を育む授業に

カリキュラム・マネジメント

を確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。



学校教育の効果を常に
検証して改善する



教師が連携し、複数の教科等の
連携を図りながら授業をつくる



地域と連携し、
よりよい学校教育を目指す

学んだことを人生や
社会に生かそうとする
学びに向かう力、
人間性など



実際の社会や
生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも
対応できる
思考力、判断力、
表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、
三つの力をバランスよく育みます。

2040年の社会に向かう教育改革

- 国際化、情報化の急速な進展

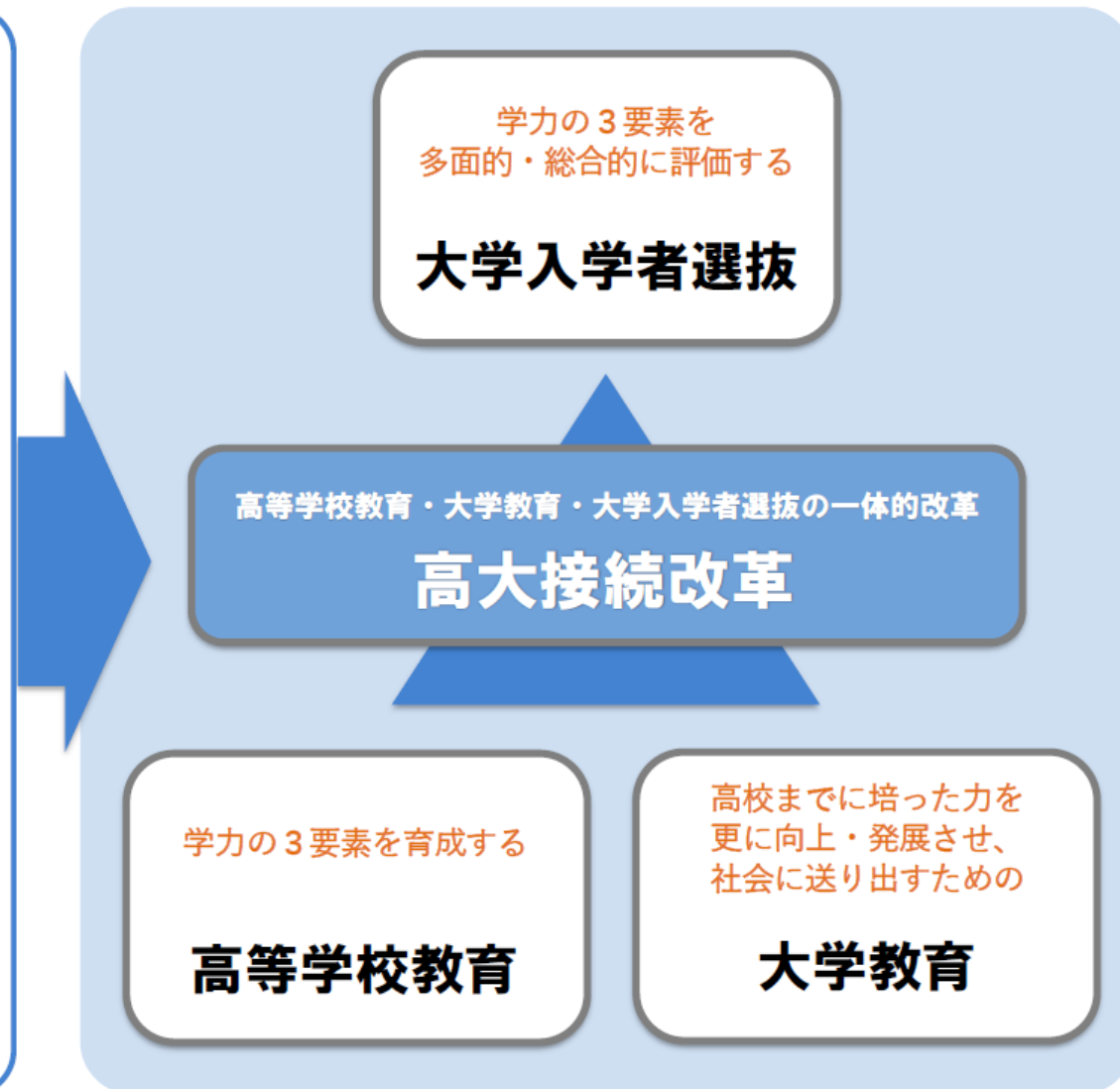


社会構造も急速に、かつ大きく変革。

- 知識基盤社会のなかで、新たな価値を創造していく力を育てることが必要。
- 社会で自立的に活動していくために必要な「学力の3要素」をバランスよく育むことが必要。

【学力の3要素】

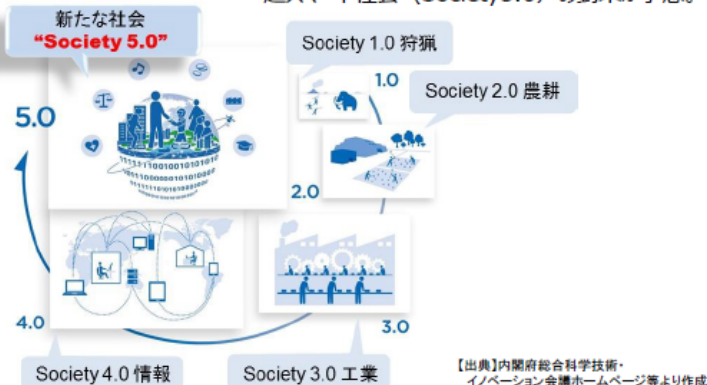
- ① 知識・技能の確実な習得
- ② (①を基にした)
思考力、判断力、表現力
- ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度



国が想定する2040年の社会の姿 (2018)

Society 5.0

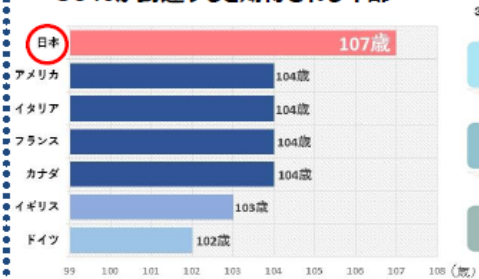
AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが大きく変化する超スマート社会 (Society 5.0) の到来が予想。



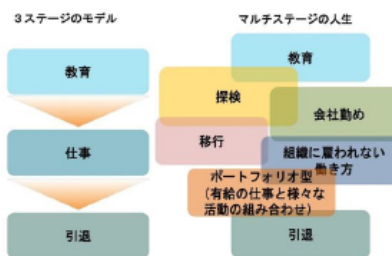
人生100年時代

世界一の長寿社会を迎え、教育・雇用・退職後という伝統的な人生モデルからマルチステージのモデルへ変化。

2007年生まれの子どもの50%が到達すると期待される年齢



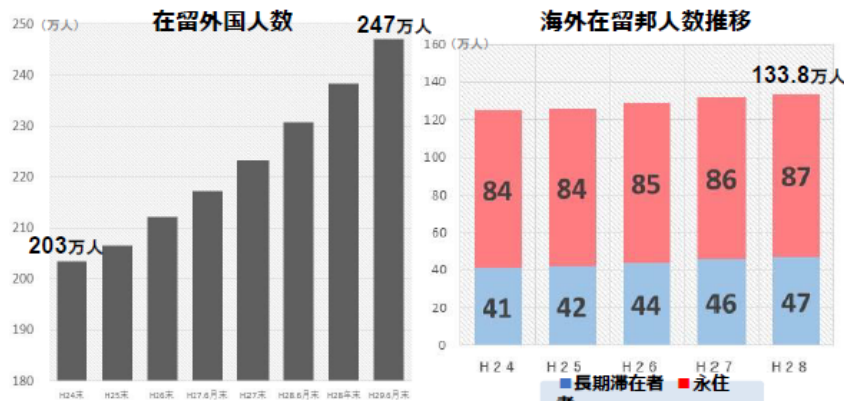
3ステージではなくマルチステージの人生



【出典】平成29年9月11日 人生100年時代構想会議資料4-2 リンダ・グラットン議員提出資料(事務局による日本語訳)より

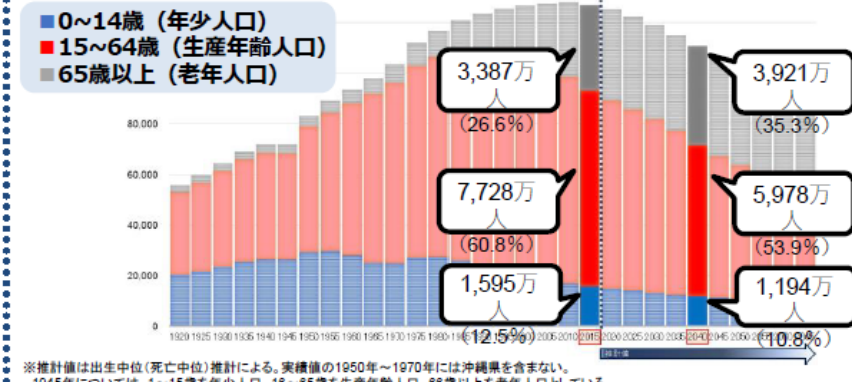
グローバル化

在留外国人数、海外在留邦人数ともに増。社会のあらゆる分野でのつながりが国境を越えて活性化。



人口減少

国立社会保障・人口問題研究所の予測では、少子高齢化の進行により、2040年には年少人口が1,194万人、生産年齢人口が5,978万人まで減少。



MOISが（世界が）重視する探究的な学習



What We Wear



Unit 5



■ About the Project

You are a student at the University of Canterbury in Christchurch, New Zealand. In your classes you do many different activities such as listening to lecture, reading research, and writing essays. Now you are taking a class on global economics and government. The final exam for the class will be a team debate on a topic related to economics, culture, and sustainability. Your professor has written several motions for debate. First, you will need to think about the topic. Next, you will need to consider the debate motion from both the affirmative and negative perspectives by discussing **Other Perspectives**. Finally, you will debate other teams using a **Debater's Mindset** and **Effective Debate Techniques** for and against the motion.

Class: _____ No: _____
Name: _____

MOIS Mathematics 1 _____ 月 日 () グループ 氏名

2 足で勝つ野球

故野村克也さんは、現役時代に戦後初、さらに捕手として初の三冠王に輝いた選手であるとともに、監督としてもデータを基に戦略を組み立てるID野球を取り入れた人として、あまりにも有名です。その功績は現代に引き継がれ、今でも著書や名言集などが書店に並ぶほど、後世に影響を与えています。より良い世界を築くことに貢献したと言えるでしょう。世界への貢献の仕方は、無数にあります。是非、これからの学校生活の中で、自分らしく、できることを見つけていきましょう。



<https://kusayakyuu.site/scissors/3475/>

とある野球部でマネージャーを務めるあなたは、野村克也氏のID野球を部活動に取り入れようと、選手のデータを集めることにしました。手始めに、まず32人の部員全員のベースランニング1周のタイムを測ってまとめると、以下の表のようになりました。

①Excelを使ってデータをまとめよう。

背番号	1周のタイム	背番号	1周のタイム	背番号	1周のタイム
①	16.3 秒	⑫	17.7 秒	⑳	18.6 秒
②	18 秒	⑬	18.3 秒	㉑	19.8 秒
③	19.1 秒	⑭	19.2 秒	㉒	21.3 秒
④	16.5 秒	⑮	16.9 秒	㉓	20 秒
⑤	17.4 秒	⑯	16 秒	㉔	17.5 秒
⑥	15.8 秒	⑰	19.4 秒	㉕	18.1 秒
⑦	16.6 秒	⑱	19.3 秒	㉖	19 秒
⑧	15.9 秒	㉀	18.8 秒	㉗	16.7 秒
⑨	18.4 秒	㉁	20.3 秒	㉘	17.4 秒
⑩	19.8 秒	㉂	18.7 秒	㉙	19.2 秒
⑪	17.4 秒	㉃	16.8 秒		

MOISが（世界が）重視する探究的な学習



MOISが（世界が）重視する探究的な学習



Risk-Takers



Open-Minded



Thinkers



Caring



Knowledgeable



Reflective



Balanced



Communicators



Principled



Inquirers

<スライド1>

おはようございます、校長の関田です。今日はMOISの学習活動についてお話しします。スライドを使いますので、参照しながら聞いてください。少し長く、20分くらい掛かると思います。

<スライド2>

皆さんがMOISで学んでいるスタイルは、一般にアクティブラーニングと呼ばれるものです。これは、知識や技能を軽視するというものではありません。学習内容の定着を高めようというものです。

(ラーニングピラミッドの説明は割愛します。)

MOISでは各教科の学習をアクティブラーニングで行うほか、様々な活動にアクティブラーニングを取り入れています。

<スライド3>

このアクティブラーニングは、日本全国の高校でも昨年度から、中学では一昨年度から正式に本格化されました。新しい学習指導要領がスタートしたからです。ただし、MOISでは開校当初から取り入れて来ました。そのため皆さんにとっては「普通の授業」に感じるでしょうが、多くの学校ではまだまだ実践に苦労しています。

(学習指導要領、アクティブラーニングの説明は割愛します。)

このアクティブラーニングによる探究的な学びによって、MOISでは入試のための知識や技能ではなく、「実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能」を定着させるとともに、従来の講義形式の学習では身に付けにくい「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力」を伸ばし、「学んだことを人生に生かそうとする学びに向かう力、人間性など」を養っているのです。

こうして養われた思考力・判断力・表現力や、学びに向かう力、人間性などは、「忘れる」ことがありません。それは「身に付いている」のであって、「覚えている」のではないからです。

<スライド4>

そして大学入学者選抜も、「学力の3要素を多面的・総合的に評価する」形に変わろうとしているところです。1期生である5年生諸君は、日本における新しい大学入試の1期生でもあるのです。大学での学びが変わらないと卒業後の社会の変化に対応していけないし、大学入試が変わらなければ高校の授業も変わらないからです。

そうは言っても知識・技能の習得度合いに不安があると言うなら、例えばスタディサプリをやり倒すといい。それは一人でもできる学習スタイルであり、有効な自学自習です。その時に必要なのは、「人類最大の敵 めんどくさい」に立ち向かう勇気です。(ごめんなさい、この部分を話しそびれました。)

けれどもそうしたコツコツ覚えるような学習は、学校の時間を使って行うにはもったいない。学校では、大人数でしかできない学習で、思考力・判断力・表現力を伸ばそうと取り組んでいます。その結果、思考力・判断力・表現力は着実に伸びていることが、1・2期生の模試の分析結果から分かっています。

なお、皆さんの親の世代は以上のことを殆ど理解していません。私を含めてアクティブラーニングすら経験したことが無いし、受験勉強はコツコツカリカリやってきた世代ですから。

<スライド5>

こうした新しい学習指導要領の背景にあるのは、例えば2018年に日本政府が想定した「2040年の社

会の姿」です。誰も経験したことの無い社会の姿です。ちなみに 2018 年は MOIS 開校準備の年でした。
(Society5.0、人生 100 年時代、人口減少、グローバル化の説明は割愛します。)

日本だけではなく、世界の各国各地域が様々な困難な課題を抱えています。そして、そうした世界を
生きた経験は、やはりまだ誰にも無いのです。

<スライド 6～8>

そうした未知の社会を生きて、よりよい世界を作っていくために、「実際の社会や生活で生きて働く
知識及び技能」「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力」「学んだことを人生に生かそうと
する学びに向かう力、人間性など」をバランスよく身に付けてもらいたいと考えて、MOIS のあらゆる
学習活動は計画されています。

各教科の学習だけではなく、MOIS におけるあらゆる活動がそうです。その点で MOIS は、おそらく
日本で最も進んだ取り組みだと思っています。皆さんは、まさに「挑戦する人」です。

明日から始まるポートフォリオ検討会で、皆さん自身の学習の成果を保護者の方に示してあげると、
探究的な学習や大学入試について、少し安心すると思います。